小地域福祉活動の活性化が地域福祉活動計画の大きな柱に！

社会福祉法人 熊取町社会福祉協議会

平成26年６月20日、熊取ふれあいセンターで「福祉委員会・ボランティアセンター設立15周年記念 地域福祉活動発表会」が開催され、平成26年３月に作成された「第３次地域福祉活動計画（基本編＋小地域福祉活動編）」をもとに、いきいきとした実践報告が行われました。

小地域活動計画を通じて若い世代の参加が広がる

地域福祉活動計画では「出会い、ふれあい、みんなで助け合いのまちづくり」を基本理念に掲げ、ボランティアセンターの機能充実や社会福祉施設等地域貢献委員会による専門性を活かした地域支援、福祉活動の拠点づくりなどが計画化されています。加えて、福祉課題の発見と支援の仕組みづくり、防災の取り組み、地域福祉を支える人材育成が大きなテーマとなっており、「小地域福祉活動の活性化」を重点に位置づけていることが特徴的です。

熊取町では、小学校区ごとに5つの校区福祉委員会と、自治会単位の38の地区福祉委員会が、世代間交流やサロン活動などを活発に行っています。今回の活動計画作成のために、平成25年度には住民アンケートに加えて、5小学校区ごとに住民の声を聞くためのワークショップを実施。ワークショップ前後には校区単位で打ち合わせ会議や報告会を3～4回ずつ行うなど、ていねいな計画づくりを行いました。

校区福祉委員会の小地域活動計画には、地域の特徴、地域資源（学校や社会福祉施設）、校区単位のデータ（高齢化や児童数等）、アンケートやワークショップから見えてきた地域のいいところや課題、これまでの活動記録、第3次計画での基本目標や取り組みのポイントがまとめられています。

校区福祉委員会からの報告では「ふれあいの集いやあいさつ運動、子どもから高齢者まで参加する世代間ウォーキングなどの行事を通じて、住民同士のつながりが生まれてきている」「子育てサロンの運営に、小学生の母親世代が協力してくれるようになった」「昨年から高校生5、6人が地域の行事に興味を持ってくれて、夏祭りを手伝ってくれるようになった」などの声があり、活動を積み重ね、小地域での計画的な取り組みを続けるなかで、若い世代の参加も広がってきています。

あいさつをする甲田義輝（こうだよしてる）会長

岸和田市社協 活動計画推進中！

施設と福祉委員会の出会い 新たな地域活動の場づくりへ

岸和田市社協では、「地域福祉の担い手づくり」「住民を主体とした活動の支援」「ネットワークの拡充」等を柱に第3次地域福祉計画・地域福祉活動推進計画（24年3月）を推進しています。

現在の計画が3年目を迎えるなか、担い手づくりに向けた地域での福祉教育・福祉学習の取り組みとして、ワークショップきしわだ（社会福祉法人いずみ野福祉会）と大宮地区福祉委員会の協働による地域交流会『親子おやつづくり教室』を6月28日に実施。「地域に根差した施設として住民との接点を強めたい」施設と、日頃の地域活動の中心である地区福祉委員会との出会いを社協がつなぎ実現しました。

当日は、子育てサロンの参加者や近所の親子3組が参加。施設利用者が指導役となり、福祉委員がサポートしながら一緒に施設自慢の手作り豆腐を使った白玉スイーツを作りました。

利用者と福祉委員は当日までに試作会を行ったこともあり息ピッタリ。普段の生活や仕事のことなど自然と会話は弾み、笑顔溢れる場となりました。

（参加者の声）

参加した親子…施設のことや利用者さんのことがよくわかった。福祉委員…つながりができ、身近な存在となった。次回は高齢者も参加できる企画を一緒にしたい。施設スタッフ…利用者それぞれが生きがいをもって頑張っている姿を自分の言葉で伝えることができた。今後も様々な形で地域との取り組みを続けていきたい。

岸和田市社協で地域担当の高馬（たかうま）さんは「将来的に利用者さんの仕事の場が地域に広がり、例えば、地域の高齢者のちょっとした暮らしの困りごとのお手伝いをできるような関係性が築ければ」と抱負を語りました。

普段から豆腐づくりを行う利用者がみんなをリードします。

つながる ひろがる

地域福祉を支える「ひと」

このコーナーでは、地域福祉の実践を支える「ひと」に話を伺い、「地域での出会い（きっかけ）」や「活動のひろがり」を紹介します。

熊取町社協
村田 由美さん
入社16年目
主に地域担当

Q社協での最初の仕事について教えてください

入社して半年で、校区福祉委員会の立ちあげのため、地域をたくさん回ってその意義を説明しました。

Q入社したてで、いきなりの大仕事、苦労されたのではないですか？

熊取町は自治会活動が盛んなこともあり、「なんで改めて福祉のための組織がいるの？」といった反応があり大変でした。しかし、府内の先進社協や先輩職員に小地域福祉活動についていろいろと教えてもらえたことが支えになりました。

Q熊取町社協での地域福祉活動計画づくりは第3次になりますね？

平成11年に校区福祉委員会をすべての小学校区で立ちあげ、1年、2年と活動を続けることで「小地域での福祉活動は大事」という意識が徐々に浸透してきました。この時期に住民会員制度を導入し、地域の福祉活動に会費が還元されることでますます活動が活発に。そうした実践の積み重ねを経たタイミングで第1次の活動計画（平成17年～）を策定しました。今回の第3次活動計画では、活動計画の策定委員長である大谷 悟教授（大阪体育大学）の指導のもと、行政の地域福祉計画の策定時期や計画期間と合わせて、会議を合同で開催したことが特徴的です。

Q計画づくりの意義・魅力はズバリ何でしょうか？

職員全員でワークショップに取り組んだり、日常業務もあるので正月返上でアンケート集計作業を行ったりといった苦労もありましたが、福祉委員や民生委員・児童委員、地域のボランティアの方々と計画づくりを通じてたくさん意見を交わし、一緒に考えることで、地域課題の共有や信頼関係が生まれてきました。計画づくりは地域づくりであり、地域で活躍する人材の発掘や育成、そして社協職員のスキルアップの場にもなっていると、つくづく感じています。

熊取町社協
平井 聡子さん
入社３年目
活動計画の主担当

Q第3次計画でこだわったこと、心掛けた点はなんですか？

住民の方が「見やすく、わかりやすい」ことを心掛けました。第2次計画までは1冊の報告書の中で小地域福祉活動についても掲載してあり、個人的には「分厚い」「小難しい」といった印象も…。そこで、今回は小地域福祉活動編として、別冊にまとめました。

Q「小地域福祉活動編」は、とてもていねいで読みやすい内容ですね。工夫された点は？

熊取町では、通常の「作業委員会」に相当する「専門部会」を設置しています。第2次までは、その部会の主なメンバーとして校区福祉委員会から1名ずつ選出されていましたが、第3次からは校区から2名ずつ推薦していただきました。理由は、計画を作って終わりにするのではなく、計画策定後に活動を推進していくときに、2人いれば相談し、カバーしあいながらでき、活動の大きな推進役にもなれるのでは、と期待したからです。校区からも、これからの小地域福祉活動のリーダー・けん引役となっていただける方を専門部会に推薦いただいたので、とても熱心に計画づくりをすすめることができました。

Q今回の計画の手応え、やりがいは？

平成26年度の校区福祉委員会の事業計画を考えているときに、地域の方から「計画で決めたスローガンを入れよう」「提案したあの事業はどうなってる？」といった声があがるようになり、住民が自分たちで作った計画になってきたと実感しています。事務局主導ではなく、住民主体の活動が広がっていくことにやりがいを感じます。

高槻市でボランティア連絡会の交流会を開催

6月21日（土）に高槻市・豊中市・摂津市のボランティア連絡会（以下、ボラ連）が交流会を実施しました。この取り組みは平成24年度から始まり、今回で３度目になります。

大阪府ボラ連（府内34市町村ボラ連で構成）でも府内４ブロックで交流会を年１～２回実施していますが、「もっと近隣で交流し、課題や今後の展望について話し合いたい」と独自に交流会が始まりました。

当日は古曽部（こそべ）防災公園を見学し、防災に対する意識を高めました。さらに、高槻市社協から災害ボランティアについて説明があり、災害ボランティアセンターシミュレーションの映像を見て、ニーズ受付やコーディネート部門など、様々な役割についてイメージを膨らませました。

交流会の最後に「各市町村ボラ連の役員だけではなく、いろいろな人が参加し、つながりが広がるような取り組みをしていこう」と今後の展開について確認し合いました。